

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	特別の教科 道徳
発行者	総合的な所見
東 書	第1の観点 ①「道徳科の時間はこんな時間に」のページに、「①気づく」、「②考える」、「③深める・広げる」など、道徳科での学び方を提示している。 ②教材文の終わりに「考えよう」、「みつめよう」のコーナーを設け、マークとともに発問を記載している。また、「考えよう」「深めよう」の発問をさらに深めるための発問も記載されている。 第2の観点 ③巻頭「道徳の授業はこんな時間に」の中に、話し合う学習活動、話し合いのポイントを示すとともに、教材文の終わり「Plus」に、直前の教材に関する話し合いの具体的な流れを示している。 ④学びの途中で思ったこと、考えたこと等について、書く欄を設けるとともに、巻末に、授業の取組や心に残った教材を記入するページを設けている。 第3の観点 ⑤「Plus」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに探究の対話「p4c」や「対話の流れ」等を記載するなど学習過程を示している。 ⑥「Plus」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに、体験的な学習に関連する学習過程の例を示している。 第4の観点 ⑦各学年とも35教材。「福祉・ボランティア」「人権・いじめ」「国際理解」「キャリア教育」「自然・環境」「健康・安全・防災」のテーマで教材を振り返ることができる。 ⑧付録に「SDGs」と関連する教材があるとともに、いじめの問題をテーマとした、3つの教材と扉ページ等の構成でユニット化した「いじめのない世界へ」を設けている。 第5の観点 ⑨各学年の目次には、4つの視点で色分けしたマークとともに、掲載している全ての教材名を示している。また、各学年「自分の学びを振り返ろう」として、切り取り式の自己評価用紙を毎学期分設けている。

	⑩「朗読音声」「ワークシート」「Web サイト」「資料」「VR 映像」「心情円」「映像」「他教科リンク」などのマークを設定し、二次元コードとともに示している。
教 出	第 1 の観点 ①「さあ、道徳を始めよう！『どうやって学ぶの？』」のページに、「問題に気づく」「考え、話し合う」「深める」「つなぐ」という学習流れをイラストや吹き出しとともに示している。 ②冒頭教材文の下に「集団や社会との関わりについて考える教材」を表す青色のマークとともに記載したり、「学びの道しるべ」のコーナーに道徳的諸価値に迫るための発問を掲載したりするなどの工夫がされている。 第 2 の観点 ③巻頭「さあ、道徳を始めよう！」の中に、話し合う学習活動、話し合いのポイントを示したり、教材文の終わりの「学びの道しるべ」に、教材における話し合いを促す発問を示している。 ④巻末に、心に残った教材や一番考えさせられた教材等を記入するページを設けている。 第 3 の観点 ⑤教材文の終わりの「学びの道しるべ」に、問題解決的な学習過程の例を示している。 ⑥「やってみよう」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに学習過程の例を示すことで、日常生活や社会との関連から自分の生き方を考えさせるような学習展開となるような工夫がされている。 第 4 の観点 ⑦各学年とも 3 5 教材。「生命の尊さ」「いじめ・人権」「情報モラル」「自然・環境」「安全・防災」「伝統・文化」「キャリア教育・社会参画」の 7 のテーマに分類している。 ⑧「いじめをなくそう」、「つながり合って生きる」、「命を輝かせる」をユニットとして掲載している。またいじめの問題をテーマとした 2 つの教材とコラムの構成でユニット化した「いじめをなくそう」を設けている。 第 5 の観点 ⑨各学年の目次には、4 つの視点で分けた教材番号と学習するまとまりを色付けするとともに、「教科書に出てくるマーク」等を示してい

	る。また切り取り式で学びの振り返りの記述欄を各学期分、1年間の振り返りを1回分設けている。 ⑩「道徳科の学びをもっと広げよう」等に、教材とSDGsとの関係を示したり、目次、教材名の下等に、デジタルコンテンツにつながる二次元コード等を示したりして内容理解を促す工夫がされている。
光 村	第1の観点 ①「本書で学ぶ皆さんへ」に、手引きを「①考えよう」「②見方を変えて」「③つなげよう」の3つで示している。 ②教材文の終わり「考えよう」のコーナーに、道徳的諸価値に迫るための主たる発問が記載されている。また、「見方を変えて」「つなげよう」のコーナーにさらに深めるための発問が記載されている。 第2の観点 ③第1教材「道徳の学習を始めよう！」の中に、話し合う学習活動、話し合いのポイントを示したり、教材文の終わりに、教材における話し合いを促す発問を示している。 ④巻末折り込みに、心に残ったことや1年間の学習の振り返り等を記入するページを設けている。 第3の観点 ⑤教材の終わりに、学習過程の例を示している。 ⑥「チャレンジ」を設け、目次及び該当ページにマークを付け、教材の終わりにテーマに迫る学習過程の例を示している。 第4の観点 ⑦各学年とも35教材。「いじめを許さないために」「食育・健康・防災」「キャリア」「法律・消費者」「福祉・共生」「伝統文化・国際理解」「社会参画」7のテーマに分類している。 ⑧「『いじめ』を許さない心について考える」、「『情報モラル』について考える」をユニット化して、目次に示している。 第5の観点 ⑨各学年の目次には、掲載している全ての教材名等を示している。また、学習するまとまりに下線を引くとともに、「教材の冒頭についている印」等を示している。さらに、各学年、切り取り式の「まなびの記録」を折り込みで設けている。 ⑩「やってみよう」「チャレンジ」「まなびをプラス」「コラム」「まなびの準備」のマークを設定している。また、二次元コードにより「動画」「朗読」「資料」等のデジタルコンテンツを示している。

日 文	第1の観点 ①見開き2ページに、主題や教材、発問と学習の流れ等を「①気づく」「②考える・議論する・深める」「③見つめる・生かす」の3つでイラストや吹き出し等とともに示している。 ②教材文の終わり「考えてみよう」、「自分にプラスワン+1」のコーナーを設け、マークとともに発問を記載している。また、教材文に続く見開きページ「学びを深めよう」に発問を記載している。 第2の観点 ③教材文の「学びを深めよう」に、話し合う学習活動、話し合いのポイントや工夫例を示すとともに、別冊「道徳ノート」の中に、話し合いの内容等を記述できる欄を設けている。 ④別冊「道徳ノート」に、自分の考えや友達の意見等を書く欄を設けるとともに、巻末のページに心に残っている授業や考えたこと等を記入するページを設けている。 第3の観点 ⑤「学びを深めよう」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに、学習過程の例を示している。 ⑥「学びを深めよう」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに、体験的な学習に関連する学習過程の例を示している。 第4の観点 ⑦各学年とも35教材。「いじめ」「情報社会」「自立と共生」「環境と未来」「安全な生活」のテーマを設定している。 ⑧いじめの問題をテーマとした2つの教材と扉ページ等の構成でユニット化した「いじめと向き合う」を設けるとともに、「いじめと向き合う」マークを使い、目次に色付けして複数示している。 第5の観点 ⑨各学年の目次には、掲載している全ての教材名等を示している。また、「道徳科での学びを始めよう!」を示すとともに、別冊「道徳ノート」に「道徳科で学んだことを振り返ってみよう」の欄を設けている。 ⑩目次、該当ページに「あすへのメッセージ」「視野を広げて」のマークを設定し、コラムのページとして示している。また教材名の下、別冊「道徳ノート」に、デジタルコンテンツにつながる二次元コードを示している。
-----	--

学 研	第1の観点 ①「さまざまなテーマで学ぼう」のページに、テーマをイラストや写真とともに示し、今気になっていること、夢中になっていることを書き込める枠を設けている。 ②教材文の終わりに「集団や社会との関わりについて考える教材」を表す青色の枠を表示し、「考えよう」のコーナーに道徳的諸価値に迫る発問を掲載するなどの工夫がされている。 第2の観点 ③巻頭「道徳科で学ぶこと考えること」の中に、考えを深める4つのステップとして話し合う学習活動、話し合いのポイントを示している。 ④教材文の下に、学びの途中で気付いたことや思ったこと等について書く欄を設けている。 第3の観点 ⑤「深めよう」に、問題解決的な学習過程の例を示し、考えたことを自由に書き込めるように工夫されている。 ⑥「深めよう」の、学習過程の終末に、「生き方につなげよう」の表記があり、自己を見つめられるように工夫されている。 第4の観点 ⑦各学年とも35教材。「いのち」「キャリア」「多様性」「家庭連携」「環境」「情報モラル」「いじめ防止」「安全」「グローバル」「消費者教育」「伝統文化」「健康」「スポーツ」「法教育」のテーマに分類している。 ⑧「持続可能な世界のために」「色とりどりに輝く」「未来に向かって」をユニット化し、いじめ問題をテーマとした教材も年間を通して配している。 第5の観点 ⑨目次の前に、先人の言葉を記載し、目次には教材を4つの視点の色分けとともに「教科書に使われるマーク」等を示している。また切り取り式で学期ごとに振り返る「学びの記録」、1時間毎の「学びの記録」の欄を設けている。 ⑩目次、教材名の下等に、デジタルコンテンツにつながる二次元コード等を示してあり、学びを促進する工夫がされている。
あか図	第1の観点 ①見開き2ページに、4つの視点ごとに、1年間で学ぶ内容項目をマークとともに示し、10個のテーマを教材名等とともに示している。

②教材文の終わりに「主として集団や社会との関わりに関すること」を表す青色の吹き出しの中に、道徳的諸価値に迫るための発問を掲載するなどの工夫がされている。

第2の観点

③巻頭「道徳科の時間は、『自分を見つめ、考え、生きる』時間」の中に、話し合う学習活動、話し合いのポイントを示し、教材文の終わりの「いろいろな見方で考える」等に、教材における話し合いを促す発問を示している。

④巻末に、授業での取組や心に残った授業等を記入するページを設けている。

第3の観点

⑤「マイ・プラス」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに、学習過程の例を示している。

⑥「マイ・プラス」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに、体験的な学習に関連する学習過程の例を示している。

第4の観点

⑦各学年とも35教材。「『いじめ』を考える」「共に生きる社会」「国際理解」「キャリア」「伝統・文化」「情報モラル」「生命の大切さ」「安全・防災」「自然・環境」「スポーツ」の10テーマを設定し、多面的・多角的に学べるようになっている。

⑧「『いじめ』を考える」、「情報モラル」、「共に生きる社会」、「キャリア」のユニットに色を付けて分類し、さらに、いじめの問題をテーマとした3つの教材と扉ページ等の構成でユニット化した「『いじめ』を考える」を設けている。

第5の観点

⑨各学年の目次には、掲載している全ての教材名等を学習するまとまりごとに示している。また、切り取り式の振り返り用紙を設けている。

⑩目次、該当する教材名の下等に、デジタルコンテンツにつながる二次元コード等を示している。